

調査結果の概要

1 産地上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の動き（42漁港）（表1参照）

平成19年の調査対象漁港における上位品目の上場水揚量の動向をみると、前年に比べするめいか（生鮮）（202%）、びんなが（生鮮）（182%）等は増加したものの、さば類（77%）、まあじ（87%）等は減少した。

同様に上場水揚価額の動向をみると、前年に比べするめいか（生鮮）（133%）、さんま（131%）等は増加したものの、するめいか（冷凍・近海）（88%）、まあじ（91%）等は減少した。

また、卸売価格については、かたくちいわし（134%）、さば類（132%）等は上昇したものの、するめいか（生鮮）（66%）、びんなが（生鮮）（70%）等は低下した。

表1 品目別上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格（上場水揚量上位品目）

年月	品目	単位									
		さば類	さんま	かつお (冷凍)	かたくち いわし	ほっけ	まあじ	するめいか (生鮮)	かつお (生鮮)	するめいか (冷凍・近海)	びんなが (生鮮)
上場水揚量		上場水揚量：t 上場水揚価額：百万円 卸売価格：円/kg									
19.1		54 615	10	18 113	12 858	12 374	6 693	2 250	328	2 612	2 912
2		26 414	2	19 445	6 133	9 605	8 213	1 758	580	2 251	2 709
3		21 161	2	22 039	16 512	6 390	7 558	807	934	1 290	2 656
4		14 940	2	17 087	20 344	6 039	10 786	546	1 914	58	3 563
5		13 261	1	18 319	25 009	5 741	9 958	398	7 627	3	15 544
6		9 718	150	17 419	23 853	2 924	10 129	1 596	16 229	229	13 354
7		33 180	1 291	16 526	5 374	1 136	8 009	4 003	19 698	3 004	2 176
8		41 308	19 220	26 265	6 810	2 050	6 539	13 067	12 412	7 986	377
9		41 430	68 987	15 602	1 046	6 215	7 622	15 745	6 438	9 822	262
10		49 037	82 455	14 003	4 258	15 869	5 201	17 308	5 858	6 826	433
11		51 036	79 478	17 351	1 008	14 491	8 093	16 500	592	9 286	1 561
12		55 124	6 272	22 038	1 893	22 117	6 296	9 465	273	7 125	3 171
	平成19年合計	411 224	257 871	224 206	125 098	104 951	95 099	83 443	72 884	50 491	48 717
	平成18年合計	536 159	208 445	220 431	133 057	79 336	109 117	41 248	78 964	53 021	26 820
	対前年比(%)	77	124	102	94	132	87	202	92	95	182
上場水揚価額											
19.1		3 412	1	2 555	370	425	935	451	114	658	940
2		2 164	0	2 493	247	351	1 336	377	321	578	979
3		1 730	0	2 866	736	284	1 485	259	557	329	959
4		1 322	0	2 309	856	344	1 833	190	1 106	15	963
5		1 041	0	2 848	990	374	2 393	52	2 718	1	3 046
6		796	7	2 915	1 151	211	2 182	283	3 519	55	2 380
7		2 251	763	2 786	277	118	1 652	947	4 330	729	541
8		2 670	2 586	4 958	311	155	1 417	2 172	3 236	1 816	220
9		3 125	5 391	3 084	47	314	1 381	2 031	2 316	2 172	156
10		5 075	5 658	2 844	224	505	1 128	2 506	1 790	1 671	256
11		5 488	4 056	3 013	59	415	1 061	2 787	240	2 253	624
12		4 491	317	3 866	114	482	1 091	1 179	50	1 478	946
	平成19年合計	33 565	18 779	36 536	5 382	3 980	17 894	13 235	20 296	11 754	12 009
	平成18年合計	33 209	14 340	28 798	4 253	4 167	19 561	9 916	18 782	13 386	9 457
	対前年比(%)	101	131	127	127	96	91	133	108	88	127
卸売価格											
19.1		62	80	141	29	34	140	201	349	252	323
2		82	176	128	40	37	163	214	554	257	361
3		82	136	130	45	45	197	320	596	255	361
4		88	103	135	42	57	170	347	578	257	270
5		78	263	155	40	65	240	132	356	205	196
6		82	48	167	48	72	215	177	217	239	178
7		68	591	169	52	104	206	237	220	243	249
8		65	135	189	46	76	217	166	261	227	583
9		75	78	198	45	51	181	129	360	221	597
10		103	69	203	53	32	217	145	306	245	592
11		108	51	174	58	29	131	169	405	243	400
12		81	50	175	60	22	173	125	182	207	298
	平成19年平均	82	73	163	43	38	188	159	278	233	247
	平成18年平均	62	69	131	32	53	179	240	238	252	353
	対前年比(%)	132	106	124	134	72	105	66	117	92	70

注：1 平成19年は42漁港（別表2参照（P.10））、平成18年は51漁港（別表3参照（P.11～12））の結果であるため、データの利用に当たっては留意されたい。

2 「対前年比」には調査区の変更に伴う増減が含まれる。

(1) さば類（19漁港）（表1、図1、2参照）

上場水揚量は41万1,224tで、前年に比べ23%減少した。

上場水揚価額は335億6,500万円で、前年に比べ1%増加した。

1kg当たりの卸売価格は82円で、前年に比べ32%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、銚子（千葉）が17%と最も高く、次いで松浦（長崎）が13%、八戸（青森）が12%となっている。

図1 さば類の上場水揚量及び卸売価格の推移（平成19年）

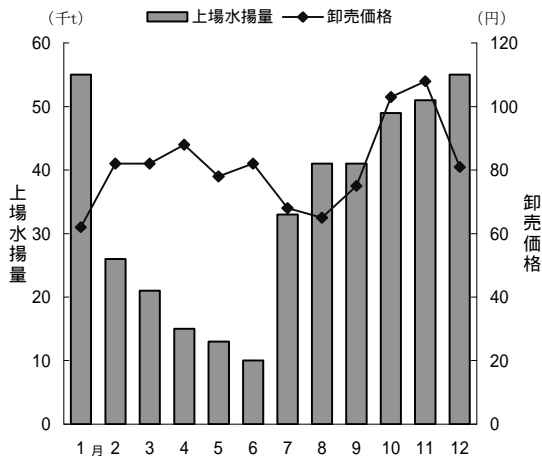
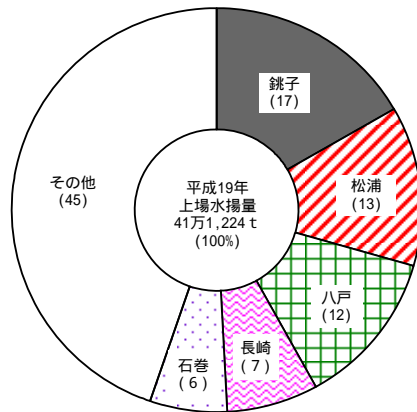


図2 さば類の上場水揚量の漁港別構成割合



(2) さんま（16漁港）（表1、図3、4参照）

上場水揚量は25万7,871tで、前年に比べ24%増加した。

上場水揚価額は187億7,900万円で、前年に比べ31%増加した。

1kg当たりの卸売価格は73円で、前年に比べ6%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、根室（北海道）が22%と最も高く、次いで女川（宮城）が16%、銚子（千葉）及び気仙沼（宮城）が14%となっている。

図3 さんまの上場水揚量及び卸売価格の推移（平成19年）

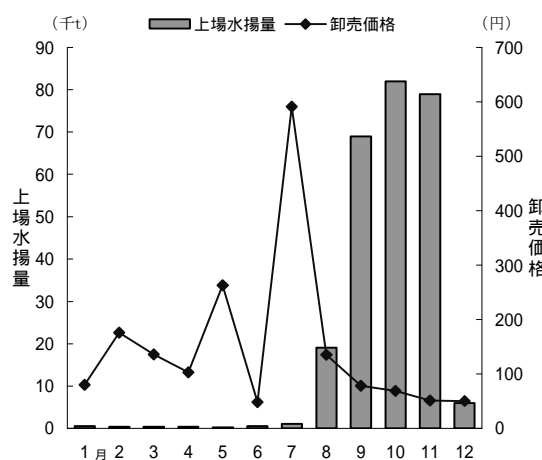
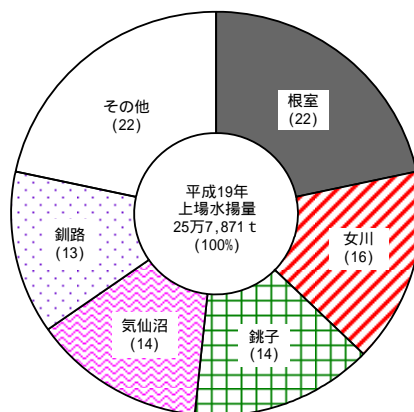


図4 さんまの上場水揚量の漁港別構成割合



(3) かつお（冷凍）（12漁港）（表1、図5、6参照）

上場水揚量は22万4,206tで、前年に比べ2%増加した。

上場水揚価額は365億3,600万円で、前年に比べ27%増加した。

1kg当たりの卸売価格は163円で、前年に比べ24%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、焼津（静岡）が57%と最も高く、次いで枕崎（鹿児島）が21%、山川（鹿児島）が11%となっている。

図5 かつお（冷凍）の上場水揚量及び卸売価格の推移（平成19年）

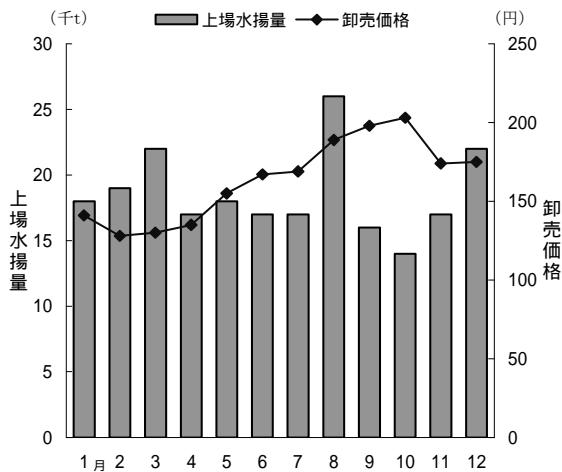
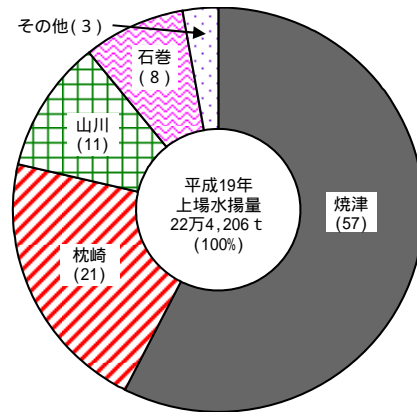


図6 かつお（冷凍）の上場水揚量の漁港別構成割合



(4) かたくちいわし（13漁港）（表1、図7、8参照）

上場水揚量は12万5,098tで、前年に比べ6%減少した。

上場水揚価額は53億8,200万円で、前年に比べ27%増加した。

1kg当たりの卸売価格は43円で、前年に比べ34%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、銚子（千葉）が42%と最も高く、次いで波崎（茨城）が22%、境（鳥取）が11%となっている。

図7 かたくちいわしの上場水揚量及び卸売価格の推移（平成19年）

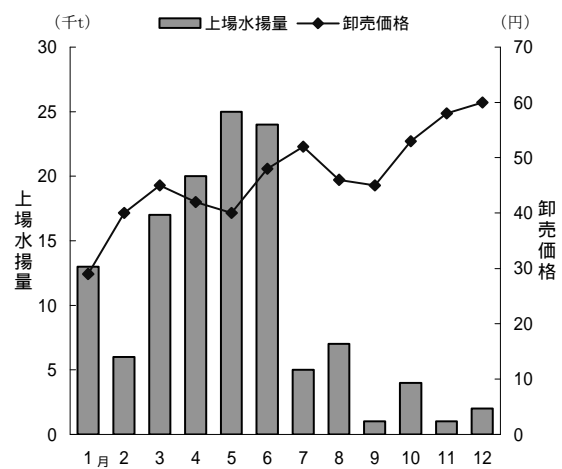
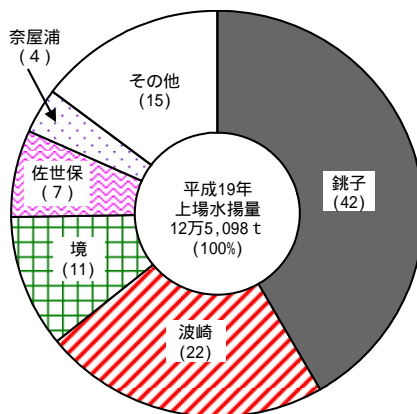


図8 かたくちいわしの上場水揚量の漁港別構成割合



2 用途別出荷量の動き（32漁港）（表2参照）

平成19年の水産物のお荷量（19品目、32漁港）は133万8,615 tで、前年に比べ3.0%（4万799 t）減少した。

これを用途別にみると、食用向けはさば類等が減少したものの、さんま等が増加したため107万7,843 tとなっており、前年に比べ2.0%（2万1,005 t）増加した。

また、非食用向けはさんま等が増加したものの、さば類等が減少したため26万772 tとなっており、前年に比べ19.2%（6万1,804 t）減少した。

このことから用途別出荷割合は食用向けが80.5%で、前年に比べ3.9ポイント上昇した。

表2 用途別出荷量（出荷量上位品目）

品目	平.19					対前年比(ポイント差)				
	出荷量計	食用向け			非食用向け	出荷量計	食用向け			非食用向け
		計	生鮮食用向け	加工向け			計	生鮮食用向け	加工向け	
	t	t	t	t	t	%	%	%	%	%
出荷量計	1 338 615	1 077 843	414 075	663 768	260 772	97.0	102.0	109.4	97.9	80.8
生鮮品計	1 071 077	810 755	344 099	466 656	260 322	95.8	101.9	109.2	97.0	80.8
うち、かつお	59 704	59 691	40 603	19 088	13	104.6	104.6	120.3	81.8	260.0
さけ・ます類	57 627	57 477	9 975	47 502	150	107.3	107.3	113.7	106.0	100.0
かたくちいわし	88 015	18 038	3 109	14 929	69 977	78.5	102.1	141.2	96.5	74.1
まあじ	98 623	65 950	32 495	33 455	32 673	96.4	94.2	101.7	87.9	101.3
さば類	353 056	252 732	90 890	161 842	100 324	76.0	79.5	101.4	70.9	68.4
さんま	189 832	141 584	52 136	89 448	48 248	127.2	128.0	116.1	136.1	124.7
するめいか	87 611	86 409	32 029	54 380	1 202	201.3	200.7	151.4	248.2	257.9
冷凍品計	267 538	267 088	69 976	197 112	450	102.4	102.4	110.1	99.9	102.0
うち、かつお	197 046	197 046	32 032	165 014	-	99.0	99.0	104.8	97.9	-
するめいか	42 748	42 298	13 184	29 114	450	99.0	98.9	93.9	101.4	102.0
出荷割合計	100.0	80.5	30.9	49.6	19.5	(-)	(3.9)	(3.5)	(0.4)	(3.9)
生鮮品計	100.0	75.7	32.1	43.6	24.3	(-)	(4.5)	(3.9)	(0.6)	(4.5)
うち、かつお	100.0	100.0	68.0	32.0	0.0	(-)	(0.0)	(8.9)	(8.9)	(-)
さけ・ます類	100.0	99.7	17.3	82.4	0.3	(-)	(0.0)	(1.0)	(1.0)	(0.2)
かたくちいわし	100.0	20.5	3.5	17.0	79.5	(-)	(4.7)	(1.5)	(3.2)	(16.1)
まあじ	100.0	66.9	32.9	33.9	33.1	(-)	(1.6)	(1.7)	(3.3)	(0.1)
さば類	100.0	71.6	25.7	45.8	28.4	(-)	(3.2)	(6.4)	(3.3)	(2.0)
さんま	100.0	74.6	27.5	47.1	25.4	(-)	(0.5)	(2.6)	(3.1)	(1.6)
するめいか	100.0	98.6	36.6	62.1	1.4	(-)	(0.3)	(12.0)	(11.8)	(0.0)
冷凍品計	100.0	99.8	26.2	73.7	0.2	(-)	(0.0)	(1.9)	(1.8)	(-)
うち、かつお	100.0	100.0	16.3	83.7	-	(-)	(-)	(0.9)	(0.9)	(-)
するめいか	100.0	98.9	30.8	68.1	1.1	(-)	(0.1)	(1.7)	(1.6)	(-)

注：1 出荷割合の対前年比（ポイント差）は、平成19年から平成18年の用途別出荷割合を引いたポイント差である。

2 出荷割合については、四捨五入の関係で合計と内訳の計が一致しない場合がある。

(1) さば類（表2、3参照）

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けは25.7%で前年に比べ6.4ポイント上昇し、食用加工向けは45.8%、魚油・飼肥料向けは1.1%、養殖用又は漁業用餌料向けは27.3%で、それぞれ前年に比べ3.3ポイント、2.0ポイント、1.2ポイント低下した。

表3 さば類の用途別出荷量（平成19年）

区分	出荷量計	食用向け			非食用向け		
		小計	生鮮食用向け	食用加工向け	小計	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用餌料向け
用途別出荷量(t)	353 056	252 732	90 890	161 842	100 324	4 033	96 291
構成割合(%)	100.0	71.6	25.7	45.8	28.4	1.1	27.3
対前年差(ポイント)	-	3.2	6.4	3.3	3.2	2.0	1.2

注：表示単位未満を四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しない場合がある。（以下の各表において同じ。）

(2) さんま（表2、4参照）

用途別にみた出荷量割合は、食用加工向けは47.1%、魚油・飼肥料向けは14.0%で、前年に比べそれぞれ3.1ポイント、1.6ポイント上昇し、生鮮食用向けは27.5%、養殖用又は漁業用餌料向けは11.5%で、前年に比べそれぞれ2.6ポイント、2.0ポイント低下した。

表4 さんまの用途別出荷量（平成19年）

区 分	出荷量計	食 用 向 け			非 食 用 向 け		
		小計	生鮮食用 向 け	食用加工 向 け	小計	魚油・飼 肥料向け	養殖用又は漁 業用餌料向け
用途別出荷量(t)	189 832	141 584	52 136	89 448	48 248	26 486	21 762
構 成 割 合 (%)	100.0	74.6	27.5	47.1	25.4	14.0	11.5
対前年差 (ポ イ ト)	-	0.5	2.6	3.1	0.5	1.6	2.0

(3) かつお（冷凍）（表2、5参照）

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けは16.3%で、前年に比べ0.9ポイント上昇し、食用加工向けは83.7%で、前年に比べ0.9ポイント低下した。

表5 かつお（冷凍）の用途別出荷量（平成19年）

区 分	出荷量計	食 用 向 け			非 食 用 向 け		
		小計	生鮮食用 向 け	食用加工 向 け	小計	魚油・飼 肥料向け	養殖用又は漁 業用餌料向け
用途別出荷量(t)	197 046	197 046	32 032	165 014	-	-	-
構 成 割 合 (%)	100.0	100.0	16.3	83.7	-	-	-
対前年差 (ポ イ ト)	-	-	0.9	0.9	-	-	-

(4) まあじ（表2、6参照）

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けは32.9%、養殖用又は漁業用餌料向けは33.1%で、前年に比べそれぞれ1.7ポイント、1.6ポイント上昇し、食用加工向けは33.9%で、前年に比べ3.3ポイント低下した。

表6 まあじの用途別出荷量（平成19年）

区 分	出荷量計	食 用 向 け			非 食 用 向 け		
		小計	生鮮食用 向 け	食用加工 向 け	小計	魚油・飼 肥料向け	養殖用又は漁 業用餌料向け
用途別出荷量(t)	98 623	65 950	32 495	33 455	32 673	48	32 625
構 成 割 合 (%)	100.0	66.9	32.9	33.9	33.1	0.0	33.1
対前年差 (ポ イ ト)	-	1.6	1.7	3.3	1.6	0.1	1.6

3 冷凍・冷蔵工場月末在庫量等の動き（表7参照）

平成19年の調査対象冷凍・冷蔵工場の月間在庫量（年平均値）は43万4,823 tで、前年に比べ1万6,235 t（4%）減少した。

月間出庫量（年平均値）は43万9,979 tで、前年に比べ1万1,717 t（3%）減少した。

月末在庫量（年平均値）は120万2,489 tで、前年に比べ3万6,595 t（3%）減少した。

表7 品目別月間入・出庫量及び月末在庫量の年平均値の推移（月末在庫量年平均値の上位品目）

品目 年次	単位：t												
	計	冷凍品	さば類	さけ類	えび類	するめいか	すけとうたら すり身	さんま	まあじ	かつお	まいわし	塩蔵品	たらこ
月間在庫量 (年平均値)													
平. 15	473 336	390 525	27 391	31 054	29 749	14 256	16 637	13 397	13 866	15 906	9 052	29 777	4 269
16	487 846	399 324	27 513	32 727	30 628	12 766	18 134	12 203	14 255	18 717	8 745	30 476	4 477
17	465 129	380 239	37 147	32 401	29 992	12 026	15 784	11 169	10 340	18 762	5 945	28 373	4 313
18	451 058	366 772	38 099	31 110	28 815	11 484	14 390	10 701	9 880	17 978	4 257	28 258	4 574
19	434 823	350 027	30 501	29 162	25 820	13 623	12 985	12 744	9 952	18 261	5 922	26 641	4 873
対前年比(%) 19/18	96	95	80	94	90	119	90	119	101	102	139	94	107
月間出庫量 (年平均値)													
平. 15	479 719	396 591	28 231	32 044	29 911	14 952	16 476	11 290	13 824	16 812	9 484	29 933	4 271
16	490 135	402 445	27 446	32 468	30 333	13 695	18 633	13 625	14 533	17 505	9 141	30 179	4 423
17	463 038	377 601	34 943	30 931	29 865	11 873	16 044	10 597	10 984	19 662	6 033	28 762	4 256
18	451 696	368 113	36 451	31 751	28 382	11 977	14 362	11 678	10 265	18 121	4 022	27 908	4 496
19	439 979	354 892	33 349	29 331	26 808	12 125	13 395	11 980	9 990	18 118	6 425	27 189	4 794
対前年比(%) 19/18	97	96	91	92	94	101	93	103	97	100	160	97	107
月末在庫量 (年平均値)													
平. 15	1 286 166	1 120 072	86 234	85 917	77 085	54 171	52 982	44 955	43 598	34 245	25 121	85 964	22 924
16	1 227 928	1 058 590	74 680	84 495	81 865	41 544	50 575	50 944	45 076	32 686	21 256	86 484	24 485
17	1 245 552	1 073 829	102 222	85 438	84 896	41 885	41 697	44 528	40 564	36 930	17 356	84 801	24 705
18	1 239 084	1 069 242	102 508	93 683	84 197	41 036	44 541	46 486	35 406	32 958	20 356	83 003	24 863
19	1 202 489	1 029 928	100 846	94 390	80 764	45 443	39 604	39 291	34 612	29 955	21 913	81 189	25 615
対前年比(%) 19/18	97	96	98	101	96	111	89	85	98	91	108	98	103

(1) さば類（冷凍品）（表7、図9、10参照）

月末在庫量（年平均値）は10万846 tで、前年に比べ1,662 t（2%）減少した。

月別にみると、月末在庫量は1月が最も多く10月が最も少ない。

図9 さば類（冷凍品）の月間入・出庫量及び月末在庫量（年平均値）の推移

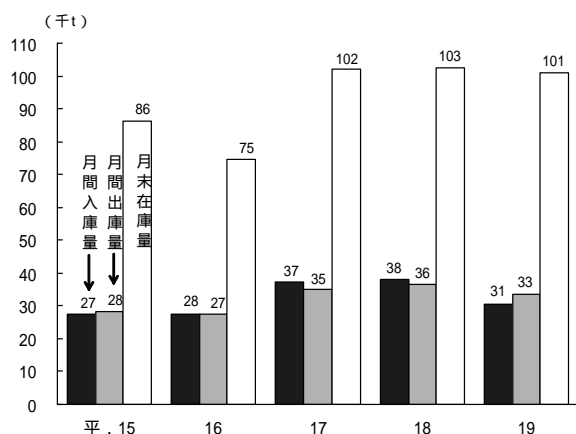
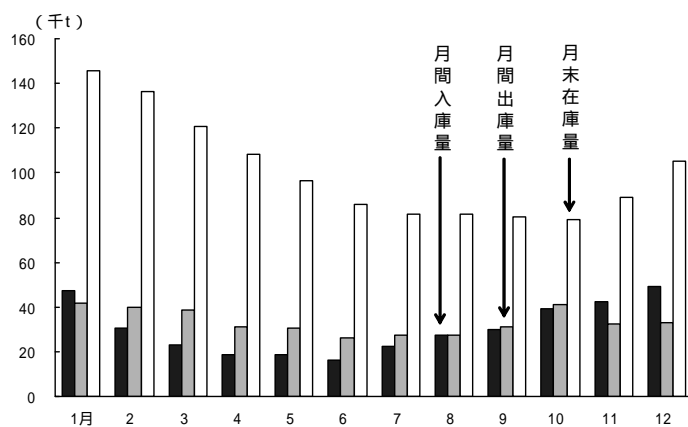


図10 さば類（冷凍品）の月別月間入・出庫量及び月末在庫量の推移（平成19年）



(2) さけ類（冷凍品）（表7、図11、12参照）

月末在庫量（年平均値）は9万4,390tで、前年に比べ707t（1%）増加した。
 月別にみると、月末在庫量は2月が最も多く7月が最も少ない。

図11 さけ類（冷凍品）の月間入・出庫量及び月末在庫量（年平均値）の推移

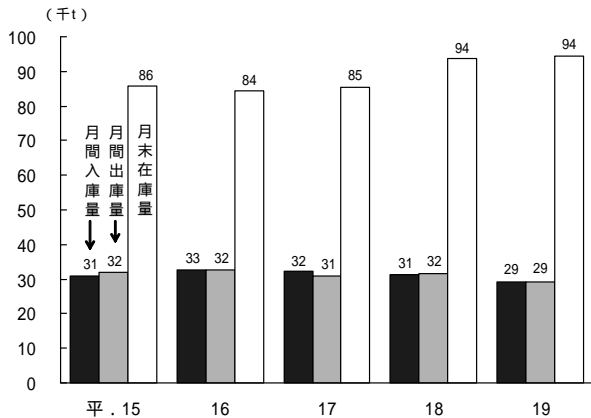
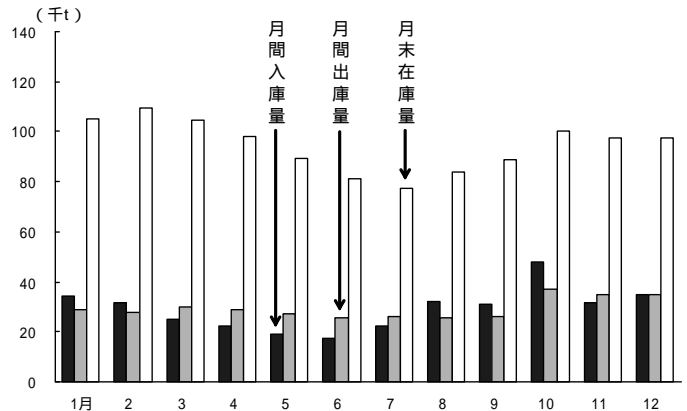


図12 さけ類（冷凍品）の月別月間入・出庫量及び月末在庫量の推移（平成19年）



(3) えび類（冷凍品）（表7、図13、14参照）

月末在庫量（年平均値）は8万764tで、前年に比べ3,433t（4%）減少した。
 月別にみると、月末在庫量は1月が最も多く7月が最も少ない。

図13 えび類（冷凍品）の月間入・出庫量及び月末在庫量（年平均値）の推移

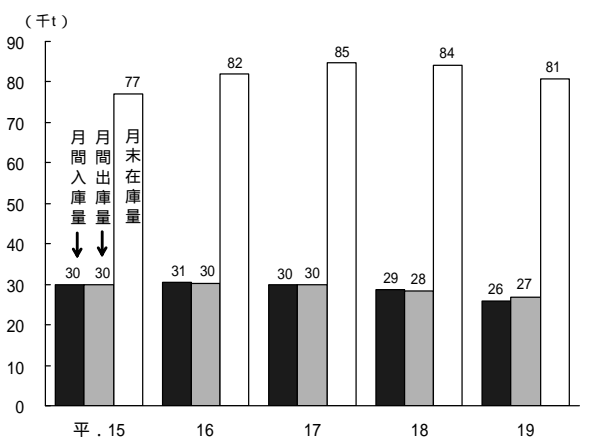
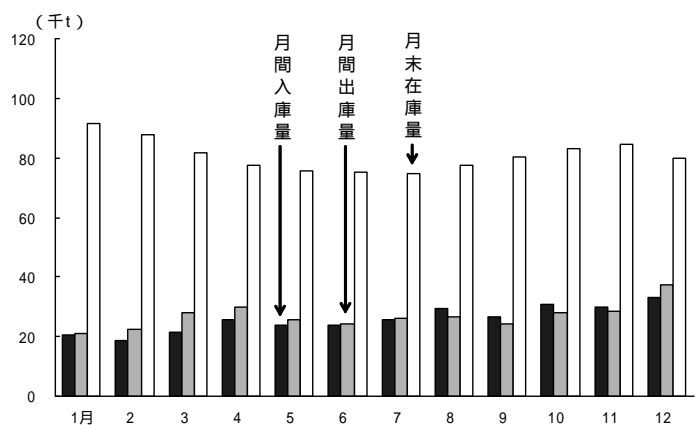


図14 えび類（冷凍品）の月別月間入・出庫量及び月末在庫量の推移（平成19年）



(4) するめいか（冷凍品）（表7、図15、16参照）

月末在庫量（年平均値）は4万5,443tで、前年に比べ4,407t（11%）増加した。
 月別にみると、月末在庫量は12月が最も多く7月が最も少ない。

図15 するめいか（冷凍品）の月間入・
 出庫量及び月末在庫量（年平均値）
 の推移

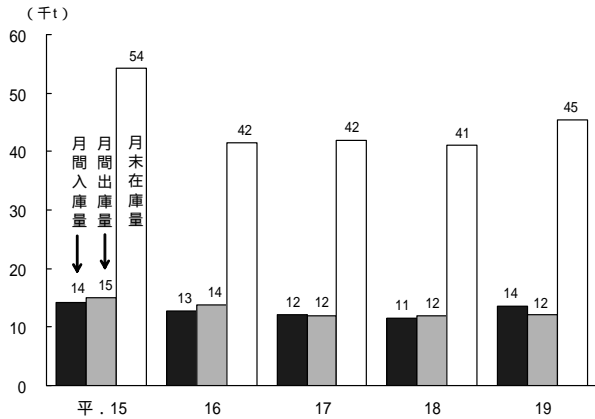
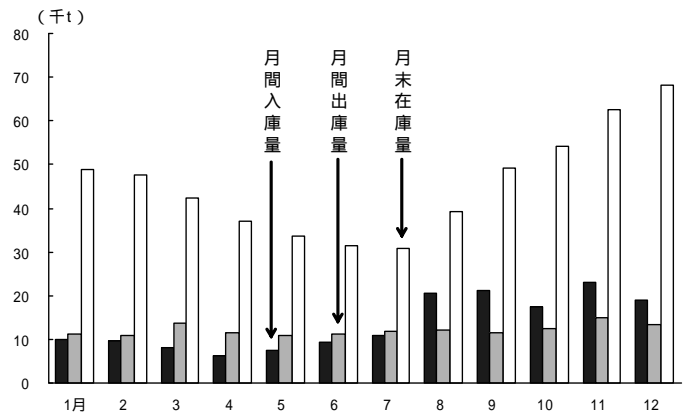


図16 するめいか（冷凍品）の月別月間入・
 出庫量及び月末在庫量の推移（平成19年）



(5) すけとうだらすり身（冷凍品）（表7、図17、18参照）

月末在庫量（年平均値）は3万9,604tで、前年に比べ4,937t（11%）減少した。
 月別にみると、月末在庫量は4月が最も多く2月が最も少ない。

図17 すけとうだらすり身（冷凍品）の
 月間入・出庫量及び月末在庫量
 （年平均値）の推移

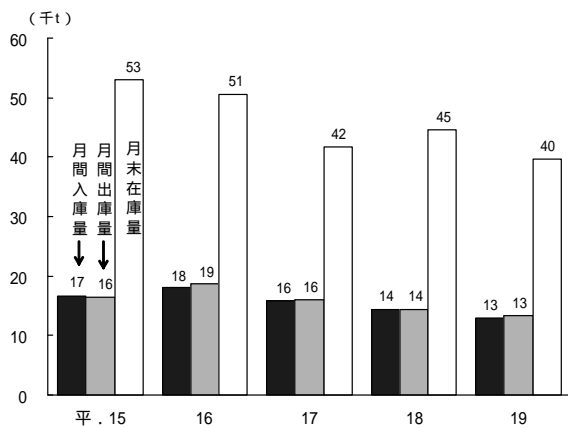
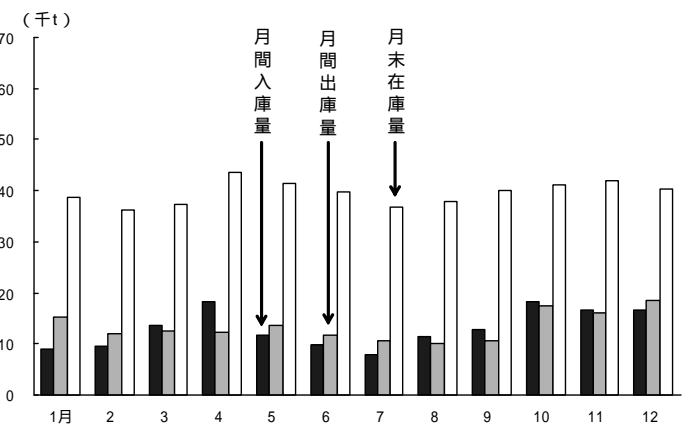


図18 すけとうだらすり身（冷凍品）の月別
 月間入・出庫量及び月末在庫量の推移
 （平成19年）



(6) さんま（冷凍品）（表7、図19、20参照）

月末在庫量（年平均値）は3万9,291tで、前年に比べ7,195t（15%）減少した。
 月別にみると、月末在庫量は12月が最も多く8月が最も少ない。

図19 さんま（冷凍品）の月間入・出庫量
 及び月末在庫量（年平均値）の推移

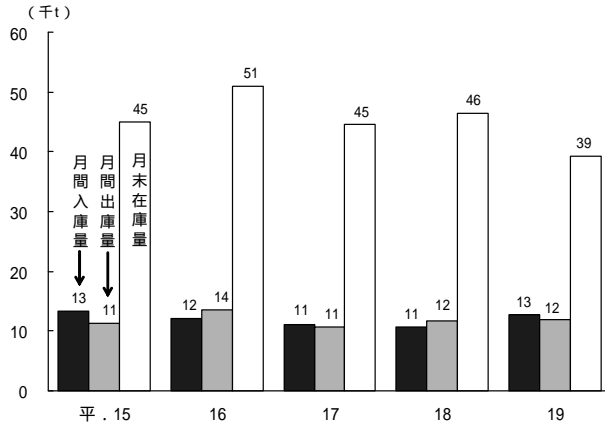
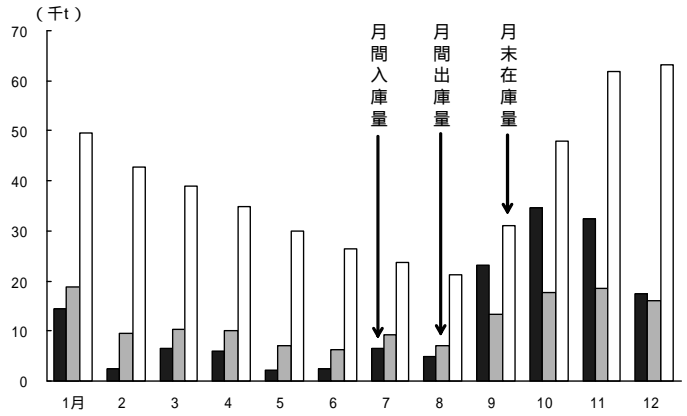


図20 さんま（冷凍品）の月別月間入・出庫量
 及び月末在庫量の推移（平成19年）



4 水産加工品生産量の動き

(1) 食用加工品生産量（表8、図21参照）

水産動植物を主原料とした食用加工品の生産量は193万546 tで、前年に比べ3%減少した。

食用加工品生産量を加工種類別にみると、全ての品目で前年に比べ減少している。

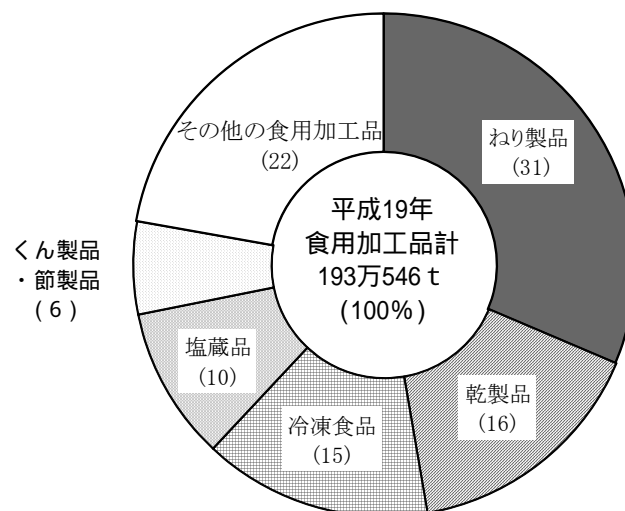
また、食用加工品生産量の加工種類別の構成割合をみると、ねり製品が31%と最も高く、次いで乾製品が16%、冷凍食品が15%となっており、この3種類で生産量全体の6割を占めている。

表8 食用加工品の加工種類別生産量の推移

加工種類 年次	食用加工品								注) 生鮮冷凍 水産物
	計	ねり製品	冷凍食品	乾製品	塩蔵品	くん製品	節製品	その他の 食用加工品	
生産量 (t)									
平.15	2 129 166	658 293	319 582	346 680	208 947	12 848	110 770	472 046	1 548 220
16	2 129 597	660 322	303 236	332 872	218 396	13 037	109 839	491 895	1 628 978
17	2 090 493	655 247	285 643	333 525	208 580	11 805	111 476	484 217	1 625 150
18	1 999 821	617 956	292 985	317 738	197 975	7 876	111 862	453 429	1 679 191
19	1 930 546	605 841	283 667	306 996	190 370	7 871	107 332	428 469	1 657 243
対前年比 (%)									
平.15	100	97	101	102	94	102	95	105	110
16	100	100	95	96	105	101	99	104	105
17	98	99	94	100	96	91	101	98	100
18	96	94	103	95	95	67	100	94	103
19	97	98	97	97	96	100	96	94	99

注： 生鮮冷凍水産物とは、水産物の生鮮品（丸のほか、フィレ等を含む。）を凍結室において凍結したものである。

図21 食用加工品生産量の加工種類別構成割合



ア ねり製品（表9、図22参照）

ねり製品の生産量は60万5,841 tで、前年に比べ1万2,115 t（2%）減少した。

品目別にみると、ねり製品の9割を占めるかまぼこ類は53万6,679 tで、前年に比べ1万7,347 t（3%）減少した。

一方、魚肉ハム・ソーセージ類は6万9,162 tで、前年に比べ5,232 t（8%）増加した。

図22 ねり製品生産量の品目別構成割合

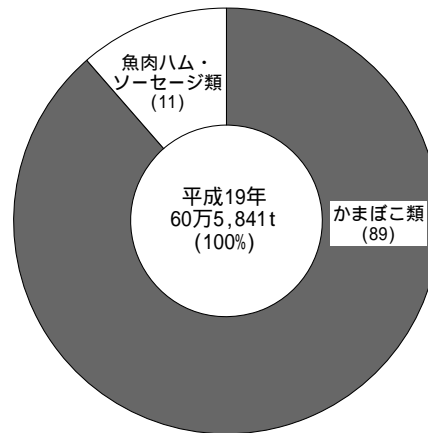


表9 ねり製品の品目別生産量

品 目	単位：t			
	平・19	18	対前年差	対前年比
ねり製品計	605 841	617 956	12 115	98 %
かまぼこ類	536 679	554 026	17 347	97
魚肉ハム・ソーセージ類	69 162	63 930	5 232	108

イ 冷凍食品（表10、図23参照）

冷凍食品の生産量は28万3,667 tで、前年に比べ9,318 t（3%）減少した。

品目別にみると、魚介類（切り身、むきえび等の加工品）は14万8,456 t、水産物調理食品は13万5,211 tで、前年に比べそれぞれ2,757 t（2%）、6,561 t（5%）減少した。

図23 冷凍食品生産量の品目別構成割合

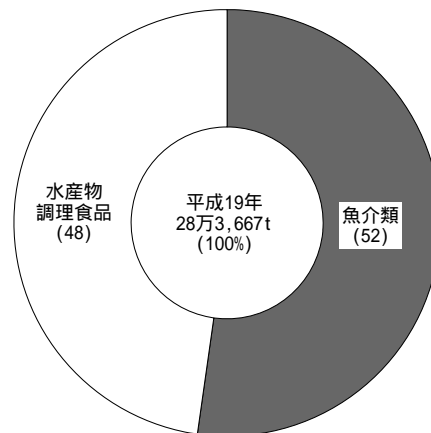


表10 冷凍食品の品目別生産量

品 目	単位：t			
	平・19	18	対前年差	対前年比
冷凍食品計	283 667	292 985	9 318	97 %
魚 介 類	148 456	151 213	2 757	98
水産物調理食品	135 211	141 772	6 561	95

ウ 乾製品（表11、図24、25、26参照）

乾製品の生産量は30万6,996 tで、前年に比べ1万742 t（3%）減少した。このうち、素干し品は2万2,585 t、塩干品は21万2,002 tで、前年に比べそれぞれ3,232 t（13%）、1万881 t（5%）減少した。

一方、煮干し品は7万2,409 tで、前年に比べ3,371 t（5%）増加した。

また、乾製品の7割を占める塩干品について品目別構成割合をみると、あじが24%と最も高く、次いでほっけが21%、いわしが11%、さんまが10%となっている。

図24 素干し品生産量の品目別構成割合

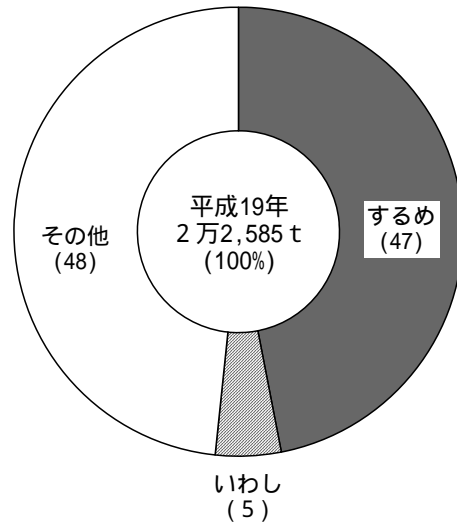


図25 塩干品生産量の品目別構成割合

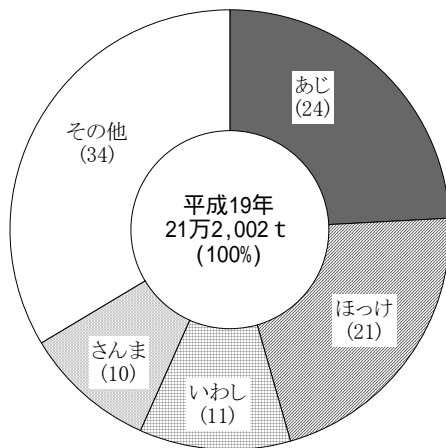


図26 煮干し品生産量の品目別構成割合

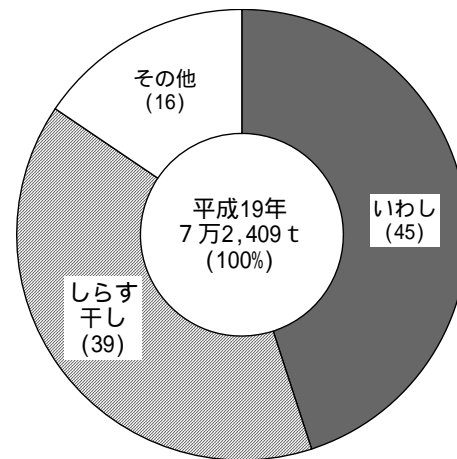


表11 乾製品の品目別生産量

品目	単位：t			
	平・19	18	対前年差	対前年比 %
乾製品計	306 996	317 738	10 742	97
素干し品	22 585	25 817	3 232	87
うち、するめ	10 613	10 450	163	102
いわし	1 063	1 367	304	78
塩干品	212 002	222 883	10 881	95
うち、いわし	23 468	25 213	1 745	93
あじ	50 965	50 803	162	100
さんま	20 752	24 458	3 706	85
ほっけ	45 564	49 129	3 565	93
煮干し品	72 409	69 038	3 371	105
うち、いわし	32 664	29 676	2 988	110
しらす干し	28 458	23 779	4 679	120

エ 塩蔵品（表12、図27参照）

塩蔵品の生産量は19万370 tで、前年に比べ7,605 t（4%）減少した。

品目別にみると、さけ・ますは10万1,363 t、たら・すけとうだらは9,560 tで、前年に比べそれぞれ6,940 t（6%）、1,693 t（15%）減少した。

なお、さばは2万6,305 t、さんまは1万3,032 tであった。

また、品目別構成割合をみると、さけ・ますが53%と最も高く、次いでさばが14%、さんまが7%、たら・すけとうだらが5%となっている。

図27 塩蔵品生産量の品目別構成割合

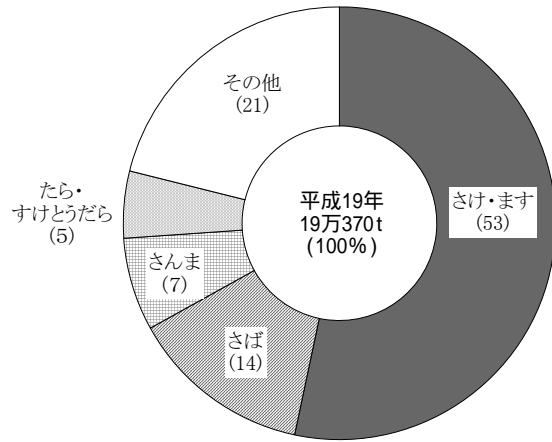


表12 塩蔵品の品目別生産量

品目	単位：t			
	平・19	18	対前年差	対前年比
塩蔵品計	190,370	197,975	7,605	96
うち、さば	26,305	26,363	58	100
さけ・ます	101,363	108,303	6,940	94
たら・すけとうだら	9,560	11,253	1,693	85
さんま	13,032	13,077	45	100

オ くん製品、節製品（表13、図28参照）

くん製品の生産量は7,871 tで、前年並みであった。

節製品の生産量は10万7,332 tで、前年に比べ4,530 t（4%）減少した。

節製品を品目別にみると、節類は6万6,449 tで、前年に比べ4,942 t（7%）減少した。

一方、けずり節は4万883 tで、前年に比べ412 t（1%）増加した。

図28 節製品生産量の品目別構成割合

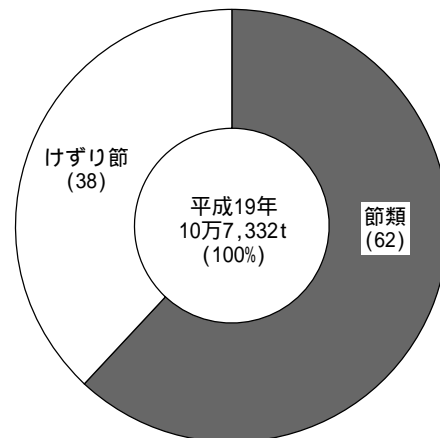


表13 くん製品、節製品の品目別生産量

品目	単位：t			
	平・19	18	対前年差	対前年比
くん製品	7,871	7,876	5	100
節製品	107,332	111,862	4,530	96
節類	66,449	71,391	4,942	93
けずり節	40,883	40,471	412	101

(2) 生鮮冷凍水産物生産量（表14、図29参照）

生鮮冷凍水産物の生産量は165万7,243 tで、前年に比べ2万1,948 t（1%）減少した。

品目別にみると、まあじ・むろあじ類は7万1,581 t、さば類は34万7,249 tで、前年に比べそれぞれ1万6,016 t（18%）、9万4,434 t（21%）減少した。

一方、いわし類は26万7,527 t、さんまは17万9,245 tで、前年に比べそれぞれ1万8,127 t（7%）、5万4,660 t（44%）増加した。

また、品目別構成割合をみると、さば類が21%と最も高く、次いでいわし類が16%、さんまが11%、さけ・ます類が10%、いか類が5%となっている。

図29 生鮮冷凍水産物生産量の品目別構成割合

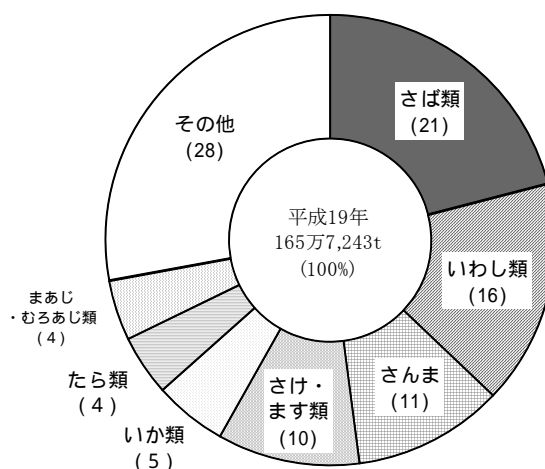


表14 生鮮冷凍水産物の品目別生産量

品目	単位：t			
	平.19	18	対前年差	対前年比
生鮮冷凍水産物計	1 657 243	1 679 191	21 948	99
うち、さけ・ます類	169 977	154 929	15 048	110
いわし類	267 527	249 400	18 127	107
まあじ・むろあじ類	71 581	87 597	16 016	82
さば類	347 249	441 683	94 434	79
さんま	179 245	124 585	54 660	144
たら類	72 531	68 649	3 882	106
いか類	86 996	69 366	17 630	125